

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 人間は常に変化していく 伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 何が起こるか分からないのが人生です。私は今日まで百年近く生きて参りましたが、随分いろいろなことがありました。私ほど長生きしなくとも、どなたもが日々いろいろな経験をされていることでしょう。そしてそれに応じて人間は常に変化していくものです。
2. 「中庸」という古典に、次のような言葉があります。「君子は、其の位に素して行い、其の外を願わず」。人間にはすべて自分の位置というものがあります。例えば、自分は親に対して子という位置にありますが、子供が生まれれば親になります。同じ人間で親になったり子になったり、変化するわけです。会社においては社長、社員などそれぞれの位置がありますが、社長は永久職ではありませんし、社員も段々昇進して社長にもなります。つまり、君子は、自分の位置に相応しいあり方を自覚しそれを過がないようにしっかり努めている。それ以外のことに心をわずらわさないものだ、とこの言葉は説いているのです。
3. 「中庸」の言葉はさらに続きます。「富貴に素して富貴に行い、貧賤に素して貧賤に行く」。地位も高く財産も十分ある時にはそれらしくふるまうこと。しかし、自分は裕福だと思っても、失職して収入を失ったり、高い地位から下に落ちたりすることもあります。そうして貧賤になれば、やはりそれらしく行動することが大事です。  
(参考:「致知」2015年1月号)

## ワンポイント経営アドバイス

### 後継者 (子ども) と意思疎通を図る

1. 実に、企業の 65% が後継者不在という。しかし、実際は、本当に後継者がいないのは 1~2 割。残りは後継者の候補はいるが、社長が決められないというケースが圧倒的に多い。「借金がなくなってから」「経営環境が落ち着いてから」などと言って、社長が明確な意思表示をしないまま時間が過ぎてしまうことが多い。要因を一言で言えば、コミュニケーション不足だ。意思疎通を図るとのことだ。
2. そのためには、先ず社長が会社の歴史を語ること。そこでは過去の苦労話や失敗談なども踏まえ、本音で話すことが重要だ。そして最低限これだけは守ってほしいという理念を具体的に示す。社長が本音の話をするだけで、子どものスタンスが劇的に変わることもある。また、社長が聞き役に回ることも重要だ。子どもの意見に耳を傾け、子どもと課題を共有する姿勢が必要になる。  
(参考:「週刊東洋経済」:2014年10月18日号)

## 経営者のための経済学

### デフレ脱却より潜在成長率の引き上げ

白川 浩道

(クレディ・スイス証券チーフエコノミスト)

1. 為替相場の水準がどの程度なら、という議論は別に必要ですが、もし為替相場がこの先、円安の水準で安定すれば、企業の国内での生産比率が高まる可能性があり、設備投資も増える可能性があると考えています。
2. 私は実は、日銀の異次元緩和の狙いは、「デフレ脱却」ではなく「潜在成長率の引き上げ」にあると受け取っています。円高や人口の高齢化などを背景として生産の海外移転が進んだわけですが、日銀は持続的な円安を実現することで、国内の生産を回帰させたいと考えているのではないのでしょうか。そうできなければすでに副作用 (アベノミックスの第1の矢「金融政策」と第2の矢「財政政策」は、効果より弊害が大きい) が表われている状況で、追加緩和をする理由がわかりません。  
(参考:「エコノミスト」2014年12月23日号)

## 古典に学ぶ

### 無為は全知全能

(解説) 生あるものはすべて死ぬ。だが、それを生みだしたものは死なない。形あるものは目に見える。だが、形を形としているものは目にみえない。音そのものは聞こえても、音を音にしているものは聞こえない。これらはすべて無為の働きである。無為は陰でもあり陽でもある。柔でもあり、剛でもある。円でもあり角でもある。生でもあり死でもある。無為は無知でもあり、無能である。と同時に全知であり全能である。  
(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)